
ホットニュース(平成14年度／第55号)

●今月の業界ホットニュース／下町再生その2

先月、下町再生特区と題して京島について書いたが、今度は西の下町の話聞いた。大阪城のすぐ南にある空堀地区の話である。

一帯は戦災を免れたため、中には明治以来の長屋も残っており、いまだに数十戸単位で祠を中心とする近隣組織を維持しているところもあるという。年中行事、慶弔事は勿論、総会は2年前まで温泉バス旅行などのレクリエーションと併せて行われていたという、大都市内では信じられない近隣コミュニティである。しかし、ここでも世代交代や核家族化が進み、空き家が増え始めたところ、若手建築家、アーティスト、地元商店主等によるアトリエ、カフェ、雑貨店等への転用の動きが始まり、下町の界隈性を活かしたまちづくりが人気を呼んでいるという。

京島でも、町工場を活かしたミニ・ミュージアムやマイスター制度などのソフト施策による活性化を紹介した。さらに、今秋は「アーティスト・イン・空き家」と銘打って、フランス人アーティストや学生に空き家に住んでもらい、下町住まいから生まれる作品を作ってもらうイベントを開催している。

いずれも、下町の良さを活かした下町再生へのソフト施策による挑戦である。こうした活発な動きを支援する方策も、都市再生の一つではないだろうか。 (代表取締役 堀田 紘之)

●すばらしい町

先日、岩手県東和町に体験型施設の事例をテーマに視察に行きましたので少々ご紹介したいと思います。ここは岩手県中央部の花巻、北上両市からほど近く、北上山系へさしかかった穏やかな田園風景広がる、人口約1万人、面積約160haの農村です。

感想を一口に言えば表題のとおり「すばらしい町」でした。幾つか理由を述べると、まず一つ目は、まちづくりの理念を「健康と長寿のまち」として、人が健康で人間らしい生活をおくるといふ基本的な部分を大切にしている点です。その取り組みの中で「園芸する」行為が人の心に作用して、リフレッシュし、健康を増進させるという効能に着目した「園芸療法」を取り入れた保健センターを開設し、保健予防から医療、リハビリテーションにいたる包括的な展開を試みています。これは農村地域における高齢化対応として今後益々積極的な展開が期待されるものと思います。

二つ目は、「グリーンツーリズムの積極的な展開」にあります。農家、民宿、農協、会社役員などで構成される運営協議会により、活動内容はここでは書ききれないほど積極的に取り組まれています。今回視察した施設として、古くから伝わる「和紙づくり」や「さき織り(布を細長く裂いて横布とし縦糸に折り込む技法)」といった伝統工芸を保存・伝承するためにこれらを受け継いでいる民家と共同で体験館の管理・運営あるいは整備を行っています。特に民間が投資し参画して実現させた体験施設は大げさなものでなく素朴で田園風景に馴染む家屋として「身の丈に応じたハコ物施設」(悪い意味でなく)の優秀な事例ではないかと思えます。

三つ目は、「とにかく町がきれい」。多くが山林または農地である道路脇の草刈りは素晴らしく徹底しており、しかも空き缶やコンビニ袋などのポイ捨てゴミがいっさい見あたりません。なぜか悔しくなり1つくらい・・・とバスから注意して見ていましたが、ホントにゴミが落ちていない。また、民家の庭先や沿道の随所に花が植えられており、沿道景観に文字通り花を添えております。こうした環境ではゴミなぞ捨てられません。

四つ目は、「積極的な交流促進とPRのうまさ」。グリーンツーリズムを武器に川崎市の市民や職員との交流をはじめ様々な団体と交流促進を展開しております。中でも川崎市内には町の出先機関として直営飲食店があり、町の食材提供によりPRと実利を図ったり、TVメディアを通じて町の紹介などPR活動に余念がありません。こうした取り組みの結果がIターンで転入したり町の職員となったりする人も多いようです。

まだまだ数多くの取り組みや関係する数多くの団体がありますが、書き切れませんのでホームページ <http://www.town.towa.iwate.jp/> をご覧ください。

(都市計画部 海口 晴彦)

●交通混雑の解消・・・

去る平成14年4月に中目黒駅前に中目黒GT(ゲートタウン)がグランドオープンした。これは上目黒二丁目地区市街地再開発事業の愛称である。当再開発事業は、建物建築とともに公共施設も整備しており、とくに中目黒駅前の交通混雑解消を目的として新たに交通広場を整備したもので、弊社も数年にわたりお手伝いをさせて頂いた。この交通広場の車路部分は、民間の敷地だったものを公共用地として移管したものである。つまり、「地権者の土地を集約してその一部を公共(目黒区)へ無償提供したもの」といえる。再開発の一環として交通広場を整備することにより、地権者は容積率アップ等のボーナスを得たことにもなるが、何より地域の問題(駅前の交通混雑)を解消するために土地を提供している。

交通広場が供用されて数ヶ月がたつが、残念ながら駅前の交通混雑は完全に解消されたとは言えない。その原因は、新たに整備した広場内のタクシー乗車待ちスペースが有効に活用されておらず、相変わらず山手通り上に乗車待ちのタクシーが停車しているためである。先日は広場内に5台、山手通り上に4台停車しており、このうち2台はバス停留所の横に停車していた。ただし、路線バスについては停留所が移設され、通過交通との交錯は最小限にとどめられているので交通広場整備の効果があったと言える(改札口から30m程度離れたため、利用者には多少不便をかけているが・・・)。

タクシーも商売上効率的に乗客を確保したいのは分かるが、土地を提供した方々はどのような気持ちでこの状況を見ているのだろうか。交通広場整備計画に伴う交通管理者との合同会議の席上での「タクシーにモラルは期待できない」との発言を思い出す。

(交通計画部 野沢 雅一)

●青年海外協力隊レポートvol.16

～モロッコの民芸品3・安物から高級品まで一寄木細工

近年、モロッコで7番目に世界遺産に指定されたばかりの港町エッサウィラは、寄木細工が有名であり、ローマ時代からの歴史を持っているとのことである。この街のメディナ(旧市街)の中には、寄木細工の工房やみやげ物屋などがたくさんある。

メディナとは、旧市街地のことであるが、人の住む場所と仕事をする場所と買い物をする場所が城壁の中で一体になって混在しており、独特の活気を持っている。エッサウィラのメディナは特に、このバランスがうまく取れているように感じられる。メインストリートに並ぶみやげ物屋の裏では、工房で製作をする職人がいて、生産直売体制がつくられている。また、道端で作業をする光景も見られるなど、親近感に溢れ、売られている商品にも信頼度が増すという効果がある。そして、店先に並んでいる商品も、いかにも荒削りな小物から手の混んだ高級家具まで、実に様々であり、買う気がなくても見て歩く楽しみがあるのである。

また、エッサウィラは芸術の街でもある。メディナにはいくつかのギャラリーもあり、世界的に有名な芸術家たちのアトリエや別荘がエッサウィラ近郊の海岸などにあるという。街角には、無名の画家の絵が売られていたり、前衛的なオブジェなどをおいているギャラリーもある。

このエッサウィラは、モロッコ人にとっても一度は訪れてみたい憧れの街であり、また、ヨーロッパなどの観光客にも人気のある街である。それら観光客や芸術家たちの厳しい目に鍛えられたエッサウィラの寄木細工は、世界に通用する民芸品だと思う。

(都市計画部 酒井 夕子)

アルメックホットニュース(平成14年10月15日発行)

////////////////////